

テンパス



TEMPUS

2006年(平成18年)

27号



東口 昭和前半



西口 現在



昭和前半



現在

も く じ

写真で見る貝塚市のいま、むかし

ふるさと知っとこ!館(貝塚市歴史展示館)

企画展2「泉州をはしる鉄道と沿線の観光名所」開催中

企画展1「写真展 貝塚市のいま、むかし」

貝塚市郷土資料展示室

企画展2「親子で見よう、なつかしのアニメづくり」

今後の展示予定

第77回かいづか歴史文化セミナー「勾玉をつくろう」

無形文化財の盆行事

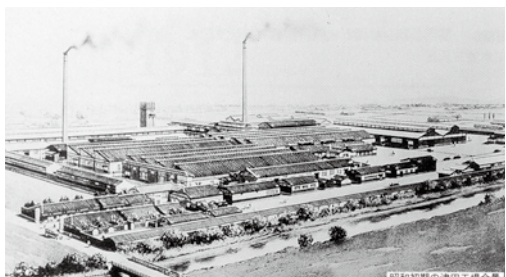
地藏堂丸山古墳から見つかっためずらしい埴輪

古文書をひも解く

「御客船名寄」に見る北前船

写真で見る貝塚市のいま、むかし

貝塚市教育委員会では、変わりゆく郷土貝塚の姿を記録にとどめることを目的に開催してきた「まちかど定点観測撮影会」（平成8～17年度開催）の成果として、「写真展 貝塚市のいま、むかし」と題する企画展を開催しました。展示は貝塚市郷土資料展示室（平成18年5月～7月）および貝塚市歴史展示館（8月～9月）で開催しました。今回のテンパス紙面では、特に変化の大きかった撮影ポイントの中から6ヵ所について紹介いたします。平成20（2008）年にまちびらきが予定されている東山丘陵の開発のようす（写真No.103、104）以外については昭和初期～40年代の写真も掲載していますので、近年の写真と比較してみてください。



昭和初期



平成8年



平成17年

No.1（津田北町）津田川に架かる新津田川橋から（株）テザック津田工場跡地方面をのぞむ



昭和44年頃



平成8年



平成17年

No.44（海塚）南海貝塚駅西口から和歌山方面（南方向）をのぞむ



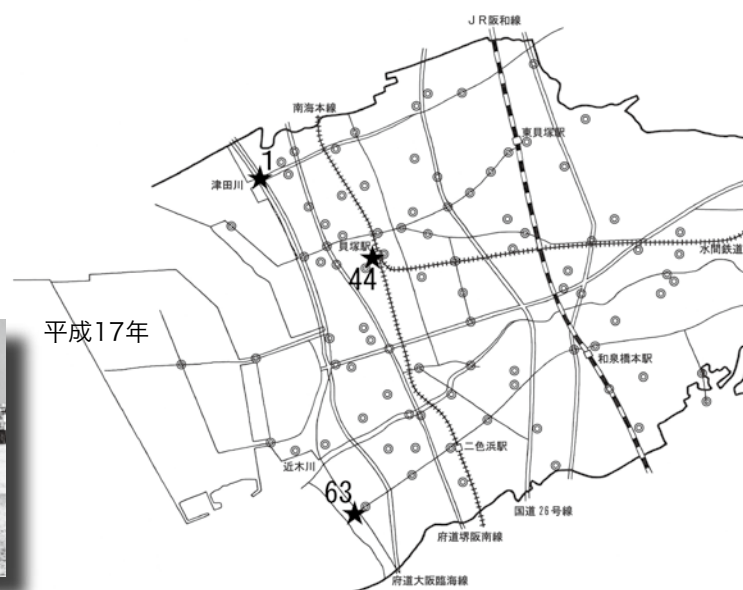
昭和44年



平成8年



平成17年



No.63（沢）二色浜海水浴場から二色パークタウン方面をのぞむ



平成 8 年



平成17年

№103（三ツ松（東山））新池東岸から府道岸和田牛滝山貝塚線（貝塚中央線）方面をのぞむ



平成 8 年



平成17年

№104（森（東山））三ヶ山側みかん畑から浜手方面（西方向）をのぞむ



昭和初期



平成 8 年



平成17年

№114（水間）府道岸和田牛滝山貝塚線（貝塚中央線）片山橋から木積の織布工場群をのぞむ



★ 写真を掲載している撮影ポイント

◎ 市内に設定した撮影ポイント（130 カ所）

ふるさと 知っとこ館(貝塚市歴史展示館)

企画展2「泉州をはしる鉄道と沿線の観光名所」開催中!

本展は平成18年9月30日(土)から11月13日(月)にかけて開催しています。

貝塚市内には、JR阪和線、南海本線、水間鉄道の3つの鉄道が走っています。本展では、南海本線の関係資料を中心に、明治～昭和初期に撮影された列車や駅舎の写真、沿線案内のパンフレット、各種記念乗車券・切符などの資料を展示することで、市内における鉄道の歴史と、その集客活動のなかで取り上げられた水間寺や二色の浜海水浴場など市内の観光名所を紹介します。



むかしの南海本線貝塚駅



南海電車 沿線案内

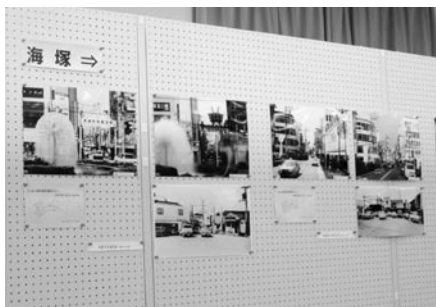
◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 臨時休館のお知らせ ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

展示準備のため、11月15日(水)～17日(金)の期間は臨時休館となります。お気をつけください。

企画展1「写真展 貝塚市のいま、むかし」

本展は、平成18年8月12日(土)から9月24日(日)にかけて開催しました。

今回の企画展は、5～7月に貝塚市郷土資料展示室でも開催した同名タイトル企画展の巡回展です。本展では、郷土資料展示室でも展示した10ヵ所の撮影写真に加え、古い時代の写真が比較的多く残っている南海貝塚駅周辺や近年大きく変化しつつある東山丘陵の写真を中心とした12ヵ所の撮影写真を新たに加えた22ヵ所の撮影写真を展示しました。会期中の観覧者数は、90名を数えました。



企画展2「親子で見よう、なつかしのアニメづくり」

本展は、平成18年9月16日(土)から10月22日(日)にかけて開催しました。

現在のアニメーションは、コンピュータなどの高度な技術によってつくられています。昔のアニメーションは「セル画」と呼ばれるものからつくられていました。今回の企画展は、親子で話題が共有できる展示会を目的として、現在の小中学生の親世代が実際に見たアニメーション作品の製作のあり方を、台本、キャラクター設定表、絵コンテ、動画、セル画などの資料をもとに展示しました。会期中、市民のみなさんはもちろん、市外からも多くの方々にご来室いただき、302名の観覧者数を数えました。



今後の展示予定

1. 平成18年11月8日(水)～11月19日(日)

貝塚市民図書館「手づくり紙しばい大会」展示

2. 平成18年11月25日(土)～平成19年1月21日(日)

「貝塚市の指定文化財」展（第Ⅲ期）

貝塚市指定文化財の紹介展。考古資料（秦廃寺出土瓦類、橋本遺跡出土青磁類、澱池遺跡出土貨泉）および古文書（福原家文書）のほか、パネルにて絵画（吉祥園寺十六羅漢画像）を紹介します。

3. 平成19年2月3日(土)～3月25日(日)

特別展「ぼっかんさんの平成大修理Ⅱ

－貝塚御坊願泉寺・重要文化財本堂半解体の成果－（仮称）

重要文化財願泉寺本堂他5棟半解体修理事業の調査成果展です。本年度は本堂の半解体の調査成果を中心に、建築部材や彫物、屋根瓦、普請関係の古文書などを展示します。

※特別展の会期のうち、平成19年2月16日(金)～28日(水)は市民図書館の蔵書整理休館のため休室します。

第77回 まが たま かいづか歴史文化セミナー「勾玉をつくろう」

今回のセミナーは、平成18年8月12日(土)午後2時より貝塚市民図書館2階視聴覚室において開催しました。

勾玉（まがたま、曲玉とも）は、約1万年前の縄文時代から約1300年前の古墳時代にかけてつくられた玉製品のひとつで、コの字形に湾曲してオタマジャクシに似た形をしているのが特徴です。一端に穴をあけて紐を通し、首飾りや腕輪などの装身具としてつかわれました。材質は、ヒスイ、碧玉（へきぎょく）、水晶といったさまざまなものがあります。

今回のセミナーでは、やわらかい滑石（かつせき）という石を加工して勾玉をつくりました。四角い石に勾玉のかたちを描き、勾玉のかたちにあわせてサンドペーパーややすりで石をけずっていきます。最初は角をとるような感じでけずっていき、次に表裏に丸みをもたせていき、勾玉を完成させます。最後にドリルやキリなどで穴をあけて紐を通し、勾玉の首飾りを完成させました。今回は、幼稚園児から小学生まで21名の子どもたちに参加いただきました。お父さん、お母さん、おばあちゃんと一緒に、参加者一人一人が思い思いの形の勾玉を完成させました。



無形文化財の盆行事 一少年の打つ鉦響く村の盆一

大阪府指定無形文化財の貝塚市東盆踊り、貝塚市指定無形文化財の貝塚三夜音頭、三ツ松明土行念仏（みつまつみようどいきねんぶつ）が今年も行われました。三ツ松明土行念仏は8月14日、貝塚三夜音頭は8月14・15日、東盆踊りは8月14日～16日に実施されました。

無形文化財に指定されている民俗芸能行事は、全国的にも後継者をどう育てるべきかで悩んでいます。貝塚三夜音頭は北小学校のふれあいルームなどで三夜音頭を教えています。また、東盆踊りも今年度に国の助成を受けて伝統文化子ども教室事業を実施しています。

三ツ松明土行念仏は途絶えていたものを昭和62年に地元の方々が復活させたものです。今までは有志の方々の努力で毎年実施されていましたが、このたび三ツ松町会の行事として認められることになりました。また、メンバーの高齢化が進むなか、今年から「年行司（ねんぎし）」とよばれる数え年18歳の若者が参加することになりました。今年は7名の16～17歳の若者が参加しました。最初は大きな太鼓を抱えたり、独特の太鼓のリズムを打つことに戸惑いを見せていましたが、行事が終わる頃には皆立派に鉦や太鼓を打っていました。



●●●^{じぞうどうまるやまこふん}地蔵堂丸山古墳から見つかっためずらしい埴輪^{はにわ}●●●

—全国的に例の少ない^{かんぼうがたはにわ}冠帽形埴輪—

貝塚市の史跡地蔵堂丸山古墳では、平成12年度から14年度に行った発掘調査でたくさんの埴輪がみつかりました。調査のようすはテンプス第14号で報告したとおりで、みつかった埴輪から地蔵堂丸山古墳は古墳時代前期（4世紀末）に築造されたことがわかりました。

埴輪は筒状の形をした円筒埴輪（えんとうはにわ）やさまざまな器材を表現した形象埴輪（けいしょうはにわ）が見つかりしています。そのなかで形象埴輪は古墳南半部のくびれ部周辺からまとまって見つかりました。家を表したものの、盾（たて）や鏃（やじり）を入れる道具である靱（ゆき）を表した埴輪などがあります。その中に、何を表現したものかわからない変わった形の埴輪がありました。専門家の方に見ていただいたところ、全国的にもめずらしい冠帽形埴輪（かんぼうがたはにわ）と呼ばれるものであることがわかりました。

冠帽は名前のとおり冠や帽子のことで、頭にかぶるものです。冠帽は古代においてその人の地位や身分などを表す重要な役割を果たしていました。布製のものがほとんどで、実物はほとんど残っていませんが、奈良県の藤ノ木古墳（ふじのきこふん）や記年銘の入った鉄剣で知られる埼玉県江田船山古墳からは金銅製の透かし彫りの入った冠が出土しています。

冠帽形埴輪は奈良県御所市掖上鐘子塚古墳（ならけん ごせし わきがみかんすづかこふん）や京都市平尾城山古墳（きょうとし ひらおしろやまこふん）などから発見されています。現在のところ、発見例は10点ほどです。いずれも古墳時代前期から中期前半にかけての古墳から発見されています。

冠帽形埴輪は、他の形象埴輪とともに古墳に並べられ、古墳に葬られた人物の身分や力を周囲の人々に示したものです。つまり古墳に葬られた人物は冠帽を身に着けることのできる高貴な身分であることを示したと考えられます。地蔵堂丸山古墳から冠帽形埴輪が見つかったことは、非常に力を持った人物が当時の貝塚にいて、身分的にも高貴な人物であることを示したものと考えられ、今回の発見は非常に意義のあるものとなりました。



冠帽形埴輪

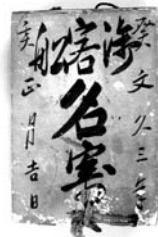
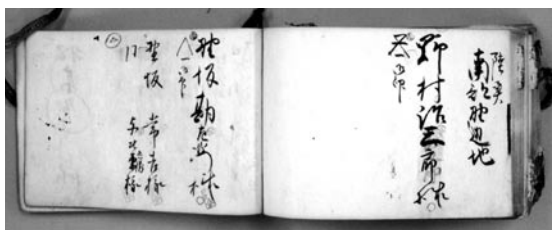
古文書をひも解く

おきやくせん なよせ きたまえばね
「御客船名寄」に見る北前船

古文書講座23「近世貝塚寺内の商人と経営」（平成18年10月7日～平成18年11月11日）では、近世に多くの商人の暮らす豊かな町であった貝塚寺内について、その貝塚寺内にのこる古文書から、当時の商人がどのような商売をしていたのか？経営はどうであったのか？時代背景はどうであったのか？といった点に注目し、当時の帳簿や手紙などを読み解いています。そのなかで、北前船（きたまえばね）と呼ばれる廻船と取り引きしていた廻船問屋廣海家（かいせんどんやひろみけ）の史料を取り上げます。

廣海家には7万点を超える古文書が残されていますが、そのなかに文久3（1863）年から書き始められた「御客船名寄（おきやくせん なよせ）」＜写真右＞と呼ばれる帳面があります。この帳面には、全国各地の取引先である北前船主の名前が港別に列挙されています。幕末には「陸奥南部野辺地（むつなんぶのへじ）」（現在の青森県上北郡野辺地町）＜写真中央＞が最も遠く、明治に入ると小樽や函館など北海道の地名が見られるようになります。これらの地からはニシンを肥料に加工した鰾粕（にしんかす）や大豆から油を取ったあとの残りを肥料とする大豆粕などが貝塚まで運ばれました。肥料は、周辺の泉州地域でさかんだった木綿作にはたくさんの量が必要でした。また、秋田や新潟・富山・福井からはたくさんの米が積み込まれ、貝塚まで運ばれました。米どころ砺波（となみ）平野に位置する「越中国射水郡伏木港（えっちゅうのくに いみずぐん ふしきみなと）」（現在の富山県高岡市伏木）＜写真左＞にも多くの北前船主の名前が見られます。これらの地域からもたらされた米は貝塚寺内に暮らす人びとの飯米のほか、綿作中心で自分の田んぼでは十分に米作りをしていない農家などが購入していました。

このように肥料や米の需要が高かったことから、北前船は日本海の荒波を越え、瀬戸内を抜けて、遠路はるばる貝塚までやってくるようになったのです。江戸時代の物流は船を中心に、日本国中それこそ「津々浦々（つつうらうら）」まで行われており、幕末から大正期にかけての貝塚浦は活気のある様子だったと考えられます。



表紙の写真

表紙の写真は、南海本線貝塚駅と二色浜駅の駅舎（昭和前半と現在）です。

貝塚駅は明治30（1897）年に設置された駅で駅舎は2度改築されています。二色浜駅は昭和9（1934）年海水浴利用者のための臨時停車駅として設置された駅で、昭和13（1938）年に常設駅になりました。（「泉州をはしる鉄道と沿線の観光名所」資料より引用）

かいづか文化財だよりテンプス27号



平成18年10月31日発行

貝塚市教育委員会

〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1

Tel (072) 433-7126 Fax (072) 433-7107

Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

印刷 ㈱和歌山印刷所

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年4回発行：各1,000部

印刷単価：67.20円